

古文献「おもろさうし」にみる土木事象

琉球大学工学部 正会員 上 間 清

Historical Comments on Civil Engineering Questions dealt with
in "OMOROSOUSI", the Old Literature of Ryukyu Kingdom

by Kiyoshi Uyema

概 要

往時の琉球王朝によって16～17世紀の間に領域内の各所から収集された古謡集である「おもろさうし」(全22巻、1554首)は、ときに「沖縄の聖典」、「沖縄の万葉集」などと称され、沖縄研究における第一級の文献と考えられている。「おもろさうし」は、古来伝わる沖縄各地(奄美諸島 含む)の古謡を、原語に従いつつも「特殊な操作」を施し、一部の単純な漢字のほかは平仮名で表現された、極めて難解な文献であった。明治以来の長期にわたる「おもろ」研究の蓄積により、今日その内容が明らかになりつつあり、わかりやすい漢字への解釈も加えられた評釈書も出るに及んでいる。

「おもろさうし」の含む多様な内容は、歴史学、民俗学、文学、芸能など広範に及び、これらの体系的な解明は、不透明な部分の多い沖縄古代研究に役立つものと、多くの学問的関心が寄せられている。

筆者は過去沖縄地域の土木史の研究をすすめてきているが、この観点から「おもろさうし」の調査・考察の必要性を痛感していた。本稿は近時、より接近しやすいかたちの「おもろ」文献の出現を得て、「おもろさうし」に含まれる土木的事象につき、その出現状況、叙述の状況を調査するとともに、併せて土木史料としての活用可能性と限界につき考察するものである。(キーワード:「おもろ」、沖縄、古文献)

1. 古文献「おもろさうし」の概要

本文献の概要を、名称、各巻概要、種類、編集時期、「おもろ」古謡の発生時期、地理的範囲につき表-1に示した。表-2は「おもろさうし」全22巻の各巻標題、内容、種類につきやや詳しく示した。「おもろさうし」が沖縄研究に関する第1級の資料とされる理由は、古代に関する文献が極めて限定されている沖縄研究にあって、本文献がほぼ12～17世紀の約500年にも及ぶと考えられる期間に発生し、伝承された内容を含み、その解明が待たれる古代沖縄の空白期と重なること、また、神事・公事・労働・地理・航海・舞踊などの多岐にわたる内容を含むことから、直接的に文学・芸能における関心のみならず、言語学・民俗学・歴史学・地理学など広い学問領域の情報が得られると考えられているからである。

しかし「おもろさうし」はかなり難解なものである。たとへば次のようである。

・きこえおおきみぎや おれてあすびよわれば てにがした たいらげて ちよわれ
とよむせだかこが しよりもりぐすく まだまもりぐすく (巻1壁頭首)

これら平仮名表記の内容を文学的・言語学的解明のみならず、歴史学・民俗学・社会学的な照査を行いつつ体系的に究明することが「おもろ」研究の目指すところである。今日、表現上の意味はかなり明らかにされつつあり、伊波普猷(1876～1947)が「おもろ」研究を始めた頃に述べた、「さながら外国

表-1 「おもろさうし」の概要

項 目	説 明
①文 献 名	「おもろさうし」は全22巻全体を表わす名称で、実際には各巻にそれぞれ「〇〇おもろさうし」と個別の表題が付されている。なお、「おもろ」は地方語の ウムイ＝思い を表わし、「さうし」は冊子、草紙、双紙などに通ずる。
②各巻内容	各巻にはそれぞれ1つのテーマの下に古謡が収録されており、それぞれ標題が付されている。たとえば、巻5「首里おもろ」、巻16「勝連、具志川おもろ」のようである。各巻の名称、内容、及び編集年次を表-2に示す。
③種 類	全22巻には合計1554首が含まれているが、重複する部分を除くと実数は1248首である。これらの類別については時代、地域、形態、機能等の観点から種々考察可能であるが、大略としては表-2に示すように「神女」、「地方」、「名人」、「舟歌」、「式歌」に類別される。
④編集時期	琉球(首里)王府が3回にわたって古謡を採録、編集して成立した。すなわち、第1回・尚清王代1531年(室町時代・享禄4年)第1巻編集、第2回・尚寧王代1613年(江戸時代・慶長18年)第2巻編集、第3回・尚典王代1633年(江戸時代・元和9年)第3巻～22巻編集。
⑤採集古謡の発生時期	「おもろ」の発生は5～6世紀と考えられているが、「おもろさうし」に含まれている古謡はほぼ12世紀(平安時代後期)～17世紀初頭(江戸時代初期)の間に沖縄諸島・奄美諸島に発生・伝承されたものと考えられている。この時代間隔は、沖縄の歴史編年における部落時代(5・6～12世紀)、按司時代(12～15世紀)、王国時代(15～17世紀)に相当する。
⑥地理的範囲	かなり広範である。すなわち、沖縄本島及びその周辺離島、宮古島、石垣島、奄美諸島、京都、鎌倉、筑紫、唐(中国)、ベトナム、タイなどである。
⑦表記法	一部に「又」「大」「世」「中」などごく少数種の漢字を用いるほかは平仮名書きとなっており、しかも、原音そのままではなく和語表現の影響を受けて「特別な操作」がなされた表現となっており、現代地方語との関連も薄く難解なものとなっている。

の文学」と言われた状況は克服されている。しかしここに至るまで、明治以来の長い研究の蓄積を経ており残された研究課題も少なくない。

表-3 に「おもろ」研究史上の主な成果を選び示した。これらのうち、今日入手が容易で、難解な平仮名「おもろ」語の殆ど全てに相当の漢字をあてはめ、専門外の研究者にも利便を供している文献は外間・西郷による「おもろさうし」(岩波書店)であろう。本文献は、逐語的に「おもろ」語を漢訳し、かつ難語については解説も施され、また巻末の解説も詳細な内容を提供しており、「おもろ」専門外の研究者にとって貴重である。本稿の考察も本文献に依拠するところが少なくない。

さて、「おもろ」のいわゆる底本(定本、校本も含む)の経緯については 図-1 のようであり、「おもろ」も他の古文獻においてよく見られるように、多くの変遷を経ていることが知られる。

2. 「おもろ」に見る土木事象

(1) 調査の視点 「おもろさうし」

が沖縄研究上の重要な史料とされることに鑑み、沖縄地域土木史（建設史）の観点からどのような事象が本文献に発見できるか、より具体的には本文献の1554首の古謡の中に含まれる土木・建築関連「おもろ」語の出現状況の整理、表現上の取扱われかた、構造的・機能的意義などに注意を払いつつ調査を行い整理し、併せて本文献の土木史料としての活用可能性と限界について考察するものである。

(2) 選出関連語 全22巻1554 首

（実質1248首）の調査の結果、重複を除いて105の関連語を選出した。これらを内容によって分類すると、①「グスク」、「ウタキ」関連54語、②道路に関するもの6語、③港・航海に関するもの4語、④建造物・工法・材料関連17語、⑤地名に関するもの17語、⑥橋関連2語、⑦その他5語、計105語である。【グスク】「ウタキ」関連が大部分を占めていることは、この建造物の分布の広範性（グスク約200～300、ウタキ約900余）、生活上の密着性からその出現頻度の高さは予想される所であるが、その他の関連語については頻度が少ない。時代の差はあれ今日と同様、島国の生活環境施設として重要性をもったであろう道路、港の関連語の少なさは意外であった。

これらは「おもろ」古謡の性格が全般的に神歌、著名人の賛美など「上」を見上げる姿勢が強く、現実

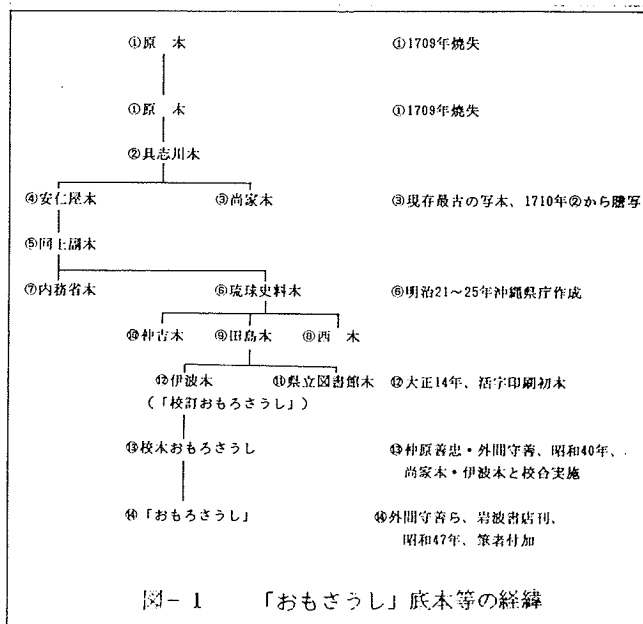
表-2 「おもろさうし」各巻標題及び内容等

巻	標 題	歌数	内 容	編集年次	類別
1	きこえおおきみがおもろ	41	第2 高氏時代の神女関連	1531	神女
2	中城・越来のおもろ	48	中城・越来地方関連	1813	地方
3	きこえおおきみがなしのおもろ	64	神女のおもろ	1623	神女
4	あおりやへ、さかさの おもろ	60	間人君に次ぐ二人の高位 の神女関連	1623	神女
5	首里のおもろ	79	首里のおもろ	1623	地方
6	首里おおきみ、せんきみ 君がなし、もとふみあ がり、きみのつんじのお もろ	54	4人の高位の神女のおもろ	1623	神女
7	はひのおもろ	48	沖縄本島南部のおもろ	1623	地方
8	おもろねやがり、あかい んこがおもろ	83	二名のおもろ名人の内容	1623	名人
9	いろいろのこねりおもろ	35	髯の手を記入したおもろ	1623	舞踊
10	ありきえとのおもろ	45	船の漕行、行進歌	1623	船歌
11	首里えとのおもろ	96	内容は21巻とはほぼ同様	不明	地方
12	いろいろのあすびおもろ	94	神遊び、舞遊びのおもろ	1623	舞踊
13	船えとのおもろ	236	船歌、帆走のおもろ	1623	船歌
14	いろいろのえさおもろ	70	集団舞踊に関連	不明	舞踊
15	うらおそい、きたたん、 よんたむざおもろ	75	浦添、北谷、読谷、宜野 湾、牧志地方関連	1623	地方
16	勝連、具志川のおもろ	48	勝連、具志川、与那城地 方関連	1623	地方
17	恩納より上のおもろ	74	国頭地方及び付近の島島 関連	不明	地方
18	しま中おもろ	32	島尻、玉城付近のおもろ	1623	地方
19	ちえねん、さしき、はな ぐすくおもろ	50	知念、佐敷、具志頭関連	1623	地方
20	こめすおもろ	63	米須及び付近のおもろ	1623	地方
21	くめの三間切おもろ	114	久米島地方のおもろ	1623	地方
22	みおやだりおもろ	47	公事のおもろ	不明	式歌
14	いろいろのえさおもろ	70	集団舞踊に関連	不明	舞踊
15	うらおそい、きたたん、 よんたむざおもろ	75	浦添、北谷、読谷、宜野 湾、牧志地方関連	1623	地方
16	勝連、具志川のおもろ	48	勝連、具志川、与那城地 方関連	1623	地方
17	恩納より上のおもろ	74	国頭地方及び付近の島島 関連	不明	地方
18	しま中おもろ	32	島尻、玉城付近のおもろ	1623	地方
19	ちえねん、さしき、はな ぐすくおもろ	50	知念、佐敷、具志頭関連	1623	地方
20	こめすおもろ	63	米須及び付近のおもろ	1623	地方
21	くめの三間切おもろ	114	久米島地方のおもろ	1623	地方
22	みおやだりおもろ	47	公事のおもろ	不明	式歌

の生活者の姿勢が稀薄であるところからくるものとも考えられる。上記の105の関連語につきその一部をまとめたのが表-3である。（選出全語については発表時提示したい）

(2) 叙述の状況・例示 「おもろさうし」全般を通じての各首の表現内容は、表-2 からも知られるように神事、公事、舞踊、名人賛美などの性格が強く、土木・建築史的に直接解釈可能な叙述は極めて稀である。しかしながら、本文献が沖縄研究の重要文献とされる所以は、「おもろ」に表現され

土木史あるいは建築史的にみて、ある程度の直接性を示す「おもしろ」の事例を2,3提示し、叙述の状況の理解に役立てたい。事例は、平仮名を主とする原表現ではなく漢訳されたものを示す。()内は巻番号・巻内首番・全通番を示す。



表－４ 「おもろさうし」にみる土木関連用語（省略）

関連語	漢字訳	巻号及通番	備考
しよりもりぐすく	首里杜ぐすく	1- 1(1)	ぐすく名称・所在
いちやち”や	板門	2- 1(42)	構造・材料
げらへて	造って	5-28(240)	築 造
えんかくじ	円覚寺	5-61(283)	建造物
いしへつかなへつ	石へつ金へつ	9- 1(476)	工具
いしち”や	石門	11- 3(568)	構造・材料
ねいしまいし	根石真石	11-69(624)	構造・材料
たうなんばん	唐= 中国、南蛮= 東南アジア	13- 2(752)	海外交流
となきはし	渡名喜橋	13-16(771)	橋梁・所在
ももまがりつみあげ	百曲り積みあげ	13-125(870)	北山城城壁・構造
にしみちち”やなみち	西道、謝名道	14-15(996)	古道・所在
きやかまくら	京都、鎌倉	16-18(1134)	域外交流
いしはしこので	石橋造って	20- 6(1336)	橋梁
いしおうのかなおうの	石斧金斧	20-18(1348)	工具

３．「おもろ」の土木史料としての活用の可能性と限界－結語にかえて

明治以来の長きにわたる「おもろ」研究の蓄積を得て、今日「おもろ」は、われわれ専門外の関心者にもある程度、接近可能なレベルに至ってはいるが、しかし前述の例示のように未だ難解な文献であることには相違ない。本稿は、同文献の初歩的調査・考察の段階であるが、土木・建築史の領域では、歴史学一般における研究の成果との照査を行いつつ考察をすすめることにより、次のような事項について本文の有効な活用が期待されよう。

- (1) 出現頻度の極めて多いグスクの表現を中心とした、そのもつ社会的機能、構造的側面に関する考察。
- (2) 航海記述と、出現地名に依拠した古代における海上交通の考察。
- (3) 道・橋・知名などの記述の体系的整理をもとにした、今日なお不明な点の少なくない古代道路網の考察
- (4) 建造物の記述に基づき、これらの建築史的考察。
- (5) 海外交流関連記述による技術伝播の考察。
- (6) その他、集落の発生・分布・形成などに関する考察

しかしながら、難解な表現の上に、史的考察には欠かせない一首一首の発生時期の特定問題の未解決、土木事象そのものの表現が系統性がなく断片的であることなど多くの困難も存在しており、土木史料として十分な活用のためには「おもろ」の専門的研究（歴史学、考古学、民俗学、言語学など）の成果をまつところも少なくない。したがって、その活用には「照査の可能な範囲」という限界があり、これを越えた過大な活用は控えるべきで、この点研究にあたって十分な留意が必要であると考えらる。

（参考文献：表－３ に示す伊波、仲原、外間らの論著を主として参考とした。）